

4-3 動線、園路計画

1) 現況

小牧山内の園路は、機能的に分けると次の5種類に分けられる。

① 管理道

管理道は幅員3m以上で管理車両対応の舗装としている園路で、利用の中心となっている。史跡公園南口から小牧山城史跡情報館前を通り山頂へ至る道、史跡公園南口から東麓を通り、搦手口を経て屋敷跡伝承地の東側へ至る道である。これらの道は、史跡公園南口から北へ45m程のところで分岐し、そこまではインターロッキングブロック舗装である。山頂へ至る道は、小牧山城史跡情報館前から桜の馬場手前までは半たわみ舗装としており、令和2(2020)年度には、桜の馬場から山頂手前までを主郭地区整備の作業道として自然色アスファルト舗装とした。山頂への緊急車両の通行が可能な唯一の園路である。桜の馬場南側から青年の家まではアスファルト舗装である。東麓側の道は、分岐点から駐車場口までは土系舗装、そこから搦手口までは未舗装、搦手口から屋敷跡伝承地東側まではアスファルト舗装である。

② 大手道園路

大手口から主郭、山頂へ登る園路で、小牧・長久手の戦い時とルートはあまり変わらないと考えられる。道の両側は曲輪となっている場合が多く、通路の両側には土塁があったと考えられる。

整備年は不明であるが、擬木階段が多く、施設は老朽化しており園路面は荒れている。また、地表面の土砂の流出や大雨時には雨水の流路となっている。

③ 北園路

城として使われていた時の道ではないが、北側から小牧山に入り山頂へ向かう人達が主として利用する園路である。搦手口南東部で管理道と分岐し、中腹で史跡公園南口から山頂へ至る曲がりくねった急勾配の道で、路面は荒れ、石が露出し歩きにくい道である。

③ 細園路

細園路は、上記以外の園路で、舗装されているものと地道のままのものがある。東側については、史跡整備で土系舗装をしている。また西側は暫定整備ではあるが木質アスファルト舗装を布設している。そのほか東西にある自然遊歩道などの園路は未舗装のままとなっている。

⑤ 地道

地道としているのは、細園路のうち未舗装で、遺構を壊すなどして勝手に作られた道で、遺構の考慮はされていない道である。御嶽神社から稲荷神社へ至るルートなどがある。御嶽神社から西に向かうと暫定整備された園路にあたる。

史跡小牧山への来訪者の目的は、観光、研究、施設利用、散歩、歩道代わりにの通り抜け等が挙げられるが、以下、来訪者の動線については、主として観光や研究目的による史跡小牧山来訪者(特に初めての来訪者)を対象として記述していく。

史跡小牧山への主なアクセスは次のとおりである。

史跡小牧山へは、徒歩、自転車、自動車(自家用車、バス、タクシー等)で山の麓まで来ることができる。鉄道は、最寄り駅が小牧山の東1.9kmにある名鉄小牧線「小牧」駅で、そこからは徒歩あるいは自動車を利用することとなる。

バス停は、史跡小牧山南側に名鉄バス(名古屋市内から来る近距離高速バスを含む)と豊山タウンバスの「小牧市役所前」バス停、こまき巡回バスの「小牧山前」バス停(名称は異なるが、前記「小

牧市役所前」バス停と同所)、こまき巡回バス「小牧山前」バス停の西側約100m西側には同バス「小牧市役所」バス停があり、大手口東ガイダンス広場南側にあたる。

一般車両の駐車場は小牧山北側の小牧山北駐車場(有料、51台収容)、観光バスの駐車場となるバス専用駐車場(4台収容)は小牧山南西側にある。

駐輪場は小牧山内には設けていないため、小牧市役所駐輪場の利用を案内している。

史跡小牧山の主なゲート(入口)は7か所あり、それぞれ「大手口」「バス駐車場口」「搦手口」「北駐車場口」「山北橋口」「御幸橋口」「史跡公園南口」と呼称している。このうち、山北橋口は、小牧駅から史跡小牧山、さらに史跡小牧山北方のパークアリーナ小牧(小牧市総合体育館)への経路として整備された道路に面している。この道路は、歩道幅が広く整備されており、史跡小牧山を正面に見ながら歩くことができ、小牧駅から史跡小牧山への最短経路といえる。史跡公園南口、大手口は路線バスバス停に近く、大手口は駐輪場からも近い。北駐車場口は一般車両駐車場である小牧山北駐車場に、バス駐車場口はバス専用駐車場にそれぞれ面している。

人数調査やアンケート調査に基づくものではないが、史跡小牧山内における主な目的地は、山頂の小牧市歴史館、南東麓の小牧山城史跡情報館、史跡整備で遺構を復元整備している東麓の帯曲輪(通称史跡公園、イベントでの利用が多い)が挙げられ、それらは山の東半に位置している。ゲートを入った来訪者はそれぞれの目的地へ向かうことになるが、距離の遠近はあるが、上記7か所のどこのゲートからでも行くことができるとともに、数通りの経路がある。

2) 問題点の整理

- ・整備済みや暫定整備を行った園路で、経年劣化が見られるなど補修が必要な箇所がある。
- ・北園路は、雨水等により路面が削られて歩きにくくなっている。
- ・整備されていない園路で利用者が日常的に利用している地道があり、史跡保存上問題がある。
- ・いずれの入口からでも山内各施設等へ行くことができ、数通りの経路があるため、目的地への行き方がわかりづらい。また、山中歩行中に迷うことがある。
- ・イベント開催時は駐車場が不足することがある。
- ・バス専用駐車場から山中への動線が細園路から始まるため、わかり難い。
- ・駐輪場を設けていない。
- ・小牧山城史跡情報館はガイダンス施設であるため、来訪者に最初に訪れてもらいたいのが、搦手口、北駐車場口、山北橋口、バス駐車場口からは遠い位置にある。

3) 動線、園路整備計画

1 基本方針

- ・北側搦手口から東に向かう管理道は、路面の傷みが見られ、曲輪を横切る形態となっている。動線の見直しを行い、中学校跡整備エリアに合せた改修を行う。
- ・既存園路で、歩きにくいなどの問題がある箇所は修繕する。整備済み園路も同様とする。
- ・北園路は、路面状況が悪く早期に改修する。改修にあたっては、園路勾配が急であることや雨水処理等周辺との取り合いを十分検討する必要がある。
- ・改修や整備にあたっては、可能なかぎりユニバーサルデザインに配慮したものとする。
- ・史跡保存上問題がある地道は塞いでいく。
- ・駐車場から、また、山中歩行中、現在地と目的地がわかるように道標等サインを整備する。
- ・周辺地で駐車場、駐輪場の確保を目指す。
- ・発掘調査で新たに道や虎口が判明した場合は、遺構面を保護した上で、復元や表示をして園路として利用することを基本とする。ただし、調査で判明した道付近に既存園路がある場合は、既存園路を廃止し、確認できた道を園路とする。
- ・小牧市歴史館、小牧山城史跡情報館、東麓帯曲輪や大手口東ガイダンス広場北側の遺構復元エリア、創垂館(令和4年度から見学可能として開館再開予定)、将来的には、令和3年度から

整備を開始し、同8年度に終了予定の山頂の遺構復元整備エリアへの動線を整備する。また、これら施設を回遊する動線（主となる園路は、管理道、大手道園路、北園路）を整備する。

- ・バスによる来訪者は、大手口東ガイダンス広場で乗降車できる対応ができるよう体制を整える。なお、現在、同広場は大手口にのみ通じているが、令和4年度に予定している同広場北東部の小牧山城史跡情報館周辺（管理道部分）整備において、同広場から小牧山城史跡情報館西側へ通じる階段を整備する予定である。

- ・小牧市役所駐車場は、平日は小牧山来訪者の駐車はできないため、平日でも利用できるように駐車場所管理と調整していく。



